



四万十町
町内「ぶら〜り」散策

烏からす 手で



先月の市ノ又は、北の川の街の住宅地を抜けたT字路を左折したが、そこを反対に右に入っていくと、まもなく貯木場があつて、この貯木場を過ぎれば烏手地区となる。烏手地区には、現在14世帯、41人が暮らしている。地区の産土神は、武甕槌命を祀る弓場神社である。

そもそも、烏手は、北ノ川(北野川・喜多川)村、市ノ又村、相去(相佐也)村、弘瀬村、折合村と合わせて、北ノ川六ヶ村の一つであつた。ここ烏手も市ノ又と同様、北ノ川村在住の庄屋の部下的存在であつた名本という役職が置かれていた。

この北の川六ヶ村周辺には、広大な面積の「御留山」があつた。藩の財政を支えていた山林「御留山」を多く抱える北ノ川六ヶ村は、近代に入っても林業によつて、人・モノが集まつた。折合、相去という良質の山林と繋がっている烏手も林業が盛んで、昭和中期くらいまで、折合、相去で伐採された木材を積んだ馬車が往来していたという。ここ烏手では、折合、相去相去の原生林で切り出された木材を使つての炭焼きが盛んに行われていた。もつとも盛んだつた時代には、地区の人だけではなく、仕事を求めて遠くは葉山あたりから来ている人もあつたらしい。

さて、弓場神社の向かいに、瀟洒(しょうさ)で小さな建物が建っている。烏手地区の集会所である。以前建つていた集会所が老朽化したため、10年ほど前に建て替えられたということである。老朽化してしまったという以前の集会所は、廃校になった打井川小学校校舎の廃材を譲り受けて建てられていたのだそうだ。現在の集会所を建



弓場神社の前に建つ瀟洒な集会所。

てる時に、少し奥にあつた茶堂もここに移された。この茶堂、もともとは字黒田という場所にあつたのだが、明治23年の大水害で流されてしまった。その後、水害の心配がないところにお祀りし直して現在に至っている。

その明治23年の水害は、北ノ川村はもちろん、烏手村にも甚大な被害をもたらした。田畑は大量の土砂と石で埋まつてしまった。重機のない時代であるため、人々は手作業で懸命の復旧に励んだという。その傷跡ともいべき痕跡が、近年になって確認されている。地区で農業を営む方が、新しいハウスを建てるため、支柱を立てる穴を掘り進めていった時のことである。現在の耕土の下に「河原」の石の層が出現。そしてまたその下に、元あつた耕土が出現したのだという。この、耕土と耕土に挟まれた「河原」が水害によつて運ばれてきた石なのである。土砂や石が、こんなところまで埋め尽くしてしまうという明治23年の水害の凄まじさを改めて思う。

町のうごき

(12月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,838	-10	男 3	13	12	12
女	8,627	-11	女 5	17	9	8
計	16,465	-21	計 8	30	21	20
世帯数	8,352	-4	(12月中の届出)			
窪川地域	11,664人		大正地域	2,289人	十和地域	2,512人

四万十川の 水質状況

	適正值(mg/l)	1月13日
リン酸	≤ 1.0	0.383
硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.05
化学的酸素要求量	≤ 10.0	測定範囲以下

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部

四万十町通信

2021.2月号
Vol.179 (毎月10日発行)

●発行／四万十町企画課 ●印刷／窪川印刷

〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

☎(0880) 22-3124

FAX(0880) 22-3123

UD FONT
by MORISAWA

本文など内容の一部に見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。